

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																					
国際医療看護福祉大学校		平成13年12月11日		佐藤 本実		〒963-8811 福島県郡山市方八町2-4-19 (電話) 024-956-0160																					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																					
学校法人国際総合学園		平成7年3月24日		池田 祥護		〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通二番町541番地 (電話) 025-210-8565																					
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																					
医療	医療専門課程	言語聴覚士科			平成17年文部科学省告示第30号	-																					
学科の目的	医療・福祉・保健の領域で質の高い医療技術を提供できる言語聴覚士を育成するために、言語聴覚療法の専門知識、技術を体系的に学ぶ。さらに、人間性豊かな対人専門職としてコミュニケーション障害をもつ方々の心を理解する感受性や洞察力を磨き、臨床場面で起こる様々な問題に対応できる問題解決能力を育成する。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
	3年	3045時間	2355時間	210時間	480時間	0時間	0時間																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
120人		52	0人	5人	19人	24人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期考査と平素の学習状況を総合し、4段階評価とする。表示はA・B・C・Dとし、Dは不合格。 卒業条件は、学則の全科目の単位を履修。 進級条件は、当該年度の全科目の単位を履修。																						
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月25日～3月31日			卒業・進級条件																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任・スクールカウンセラーによる個別面談および学科長・担任による学生・保護者面談			課外活動	■課外活動の種類 特になし ■サークル活動: 無																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 北福島医療センター、寿泉堂総合病院、会田病院、かしま病院、東船橋病院、			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)																						
	■就職指導内容 マッチング、履歴書の添削、模擬面接による指導、卒業した未内定者への就職支援 等				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>言語聴覚士国家試験</td> <td>②</td> <td>30人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	言語聴覚士国家試験	②	30人	17人										
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
言語聴覚士国家試験	②	30人	17人																								
中途退学の現状	■中途退学者 3名 令和2年4月1日時点において、在学者65名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者62名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、金銭的理由 等			■中退率 4.6 %	*種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																						
	■中退防止・中退者支援のための取組 学生との個別面談、保護者会、保護者面談、三者面談、スクールカウンセラーとの面談 等				■自由記述欄																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 「無利子奨学制度」年額30万円を無利子で貸与し、卒業後の返済により、就学の便宜を図っている。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																										
当該学科のホームページURL	URL: http://www.i-medical.jp/																										

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係																															
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針 言語聴覚士の育成において、言語聴覚士法を鑑みつつ、医療・福祉の現場が専門学校に望む教育内容を確認する。更に、地域医療に貢献できる言語聴覚士を育成するため、病院並びに施設側、学生側双方にとって望ましい教育内容を提供すべく、医療・福祉機関との連携を図りながら教育課程の改善を行う。																															
(2)教育課程編成委員会等の位置付け 委員会の目的として「教育課程編成の改善」を主とするため、本委員会を教務部の指導・助言機関として位置づけ、委員会での協議事項を学校管理者で検討するとともに、本校及びグループ校の意見等を取り入れながら教育課程へ反映する。																															
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 平成29年4月1日現在																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>畔上 恭助</td> <td>国際医療福祉大学保健医療学部 教授</td> <td>令和2年4月1日～令和3年3月31日</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>阿久津 由紀子</td> <td>福島県言語聴覚士協会 会長</td> <td>令和2年4月1日～令和3年3月31日</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>志和 智美</td> <td>あずま脳神経外科病院総合ケアセンター 副センター長</td> <td>令和2年4月1日～令和3年3月31日</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>佐藤 本実</td> <td>国際医療看護福祉大学校 学校長</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>岡崎 史紹</td> <td>国際医療看護福祉大学校 教務部長</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>齋藤 順子</td> <td>国際医療看護福祉大学校言語聴覚士科 学科長</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				名前	所属	任期	種別	畔上 恭助	国際医療福祉大学保健医療学部 教授	令和2年4月1日～令和3年3月31日	②	阿久津 由紀子	福島県言語聴覚士協会 会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日	①	志和 智美	あずま脳神経外科病院総合ケアセンター 副センター長	令和2年4月1日～令和3年3月31日	③	佐藤 本実	国際医療看護福祉大学校 学校長			岡崎 史紹	国際医療看護福祉大学校 教務部長			齋藤 順子	国際医療看護福祉大学校言語聴覚士科 学科長		
名前	所属	任期	種別																												
畔上 恭助	国際医療福祉大学保健医療学部 教授	令和2年4月1日～令和3年3月31日	②																												
阿久津 由紀子	福島県言語聴覚士協会 会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日	①																												
志和 智美	あずま脳神経外科病院総合ケアセンター 副センター長	令和2年4月1日～令和3年3月31日	③																												
佐藤 本実	国際医療看護福祉大学校 学校長																														
岡崎 史紹	国際医療看護福祉大学校 教務部長																														
齋藤 順子	国際医療看護福祉大学校言語聴覚士科 学科長																														
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 年間開催数2回 第1回開催時期…7～8月、第2回開催時期…1月～2月 (開催日時) 令和2年度 第1回 令和2年8月6日 13:30～15:00 令和2年度 第2回 令和3年3月18日 13:30～15:00 令和3年度 第1回 令和3年7月21日 10:30～12:00 令和3年度 第2回 令和4年2月10日 13:30～15:00																															
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 本課程における課題は、国家試験における結果が低調な点である。本委員会にて様々な意見をいただきながら改善を進めているが、なかなか結果に結びつかない。委員の方々より、学生のやる気を引き出すため、これまでの国家試験に合格した卒業生の中から、成績上位層の者、中間層の者、ぎりぎりの点数で国家試験に合格した者をピックアップし、体験談や学習の仕方などについて、後輩たちに話してもらおう機会を作ってはどうかというアドバイスをいただいた。早速、卒業生数名を呼び、座談会形式で体験報告会を行った。																															
2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係																															
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 実習を通して言語聴覚療法の専門的知識や技術のみならず、人間性豊かな専門職としてコミュニケーション障がいを持つ方々の心理的側面を理解するように努めることを目的とする。更に臨床場面で起こる様々な問題に柔軟に対処するための能力を育成する。																															
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 実習の目標や課題を明確にし、実習指導者は、到達度・評価を項目別に点数化する。評価表は文書にて作成し、各学生に返却。返却時に内容を伝達し、本人の改善点を明示して今後のスキルアップを図る。																															
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th>連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床実習Ⅰ</td> <td>評価実習を行い、言語聴覚療法の専門的知識や技術を学ぶとともに、社会人としてスキルを養う。</td> <td>三春町立三春病院、会田病院、南東北春日リハビリテーション病院、あずま脳神経外科病院、学内実習 等</td> </tr> <tr> <td>臨床実習Ⅱ</td> <td>訓練プログラムの作成、訓練の実施、訓練を再評価といった一連の総合実習を行う。</td> <td>南東北春日リハビリテーション病院、会田病院、かしま病院、寿泉堂香久山病院、土屋病院、松田病院、学内実習 等</td> </tr> </tbody> </table>				科目名	科目概要	連携企業等	臨床実習Ⅰ	評価実習を行い、言語聴覚療法の専門的知識や技術を学ぶとともに、社会人としてスキルを養う。	三春町立三春病院、会田病院、南東北春日リハビリテーション病院、あずま脳神経外科病院、学内実習 等	臨床実習Ⅱ	訓練プログラムの作成、訓練の実施、訓練を再評価といった一連の総合実習を行う。	南東北春日リハビリテーション病院、会田病院、かしま病院、寿泉堂香久山病院、土屋病院、松田病院、学内実習 等																			
科目名	科目概要	連携企業等																													
臨床実習Ⅰ	評価実習を行い、言語聴覚療法の専門的知識や技術を学ぶとともに、社会人としてスキルを養う。	三春町立三春病院、会田病院、南東北春日リハビリテーション病院、あずま脳神経外科病院、学内実習 等																													
臨床実習Ⅱ	訓練プログラムの作成、訓練の実施、訓練を再評価といった一連の総合実習を行う。	南東北春日リハビリテーション病院、会田病院、かしま病院、寿泉堂香久山病院、土屋病院、松田病院、学内実習 等																													
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係																															
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 専門教育における教員には、授業を通して医療・福祉現場のたゆまぬ進歩の状況を学生に伝えられる知識と、学生の内面を理解した授業スキルの向上が求められる。そのため、就業規則第57条等による研修体制を充実させることで日々の研鑽を図る方針を推進している。各教員の専攻分野における実務に関する研修については教務部の年度ごとの計画に沿って、指導力の修得・向上に関する研修については各教員の契約形態や勤続年数に応じて、定期的・計画的な研修を受講させている。																															
(2)研修等の実績																															
①専攻分野における実務に関する研修等 ・令和2年10月 第44回 日本神経心理学会学術集会(日本神経心理学会主催) 対象:吉田、寺内、最新の研究データの共有、期間1日 ※対象は全員、言語聴覚士科教員																															

②指導力の修得・向上のための研修等

※令和2年度での実施はなし

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

- ・令和3年5月 福島県言語聴覚士協会総会・研修(福島県言語聴覚士会主催)
対象:齋藤・寺内・吉田・北住, 高次脳障害の経過と社会参加に関する研修, 期間1日
- ・令和3年7月 日本言語聴覚士協会研修(日本言語聴覚士協会主催)
対象:齋藤・寺内・吉田・北住, , 新カリキュラムに関する情報共有, 期間1日
- ・令和3年10月 第34回教育研究大会・教員研修会(全国リハビリテーション学校協会主催)
対象:齋藤, リハビリテーションの専門教育に関する情報共有, 期間2日

※対象は全員、言語聴覚士科教員

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・令和3年4月 新入職員研修(人財開発部主催)
対象:北住, 新入職員向け研修, 期間1日
- ・令和3年7月 新任教員フォローアップ研修(人財開発部主催)
対象:北住, 新入職員向け学生指導に関する研修, 期間1日
- ・令和3年8月 スクールカウンセラーから学ぶ、最近の若者の傾向と教員としての対応法(事業管理部主催)
対象:吉田・寺内・北住, 最近の若者の傾向と教員の対処法について, 期間1日
- ・令和3年11月 G-3昇格基準研修(人財開発部主催)
対象:北住, 昇格に係る研修, 期間1日

※対象は全員、言語聴覚士科教員

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価については、文部科学省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、任意団体である全国専門学校経営研究会(加盟校:26法人113校)により協議検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に、点検基準表を策定し、学校が委員会等の点検・評価を基に作成し、学校長が再点検の上、学校運営に反映させる方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念、教育目的、教育目標
(2) 学校運営	教育の内容・管理運営・改革改善
(3) 教育活動	教育の内容
(4) 学修成果	教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	学生支援
(8) 財務	管理運営(法人)
(9) 法令等の遵守	管理運営
(10) 社会貢献・地域貢献	社会的活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校・評価委員会・本部による点検後の自己点検評価に基づき、不備な点の改善、方向性、及び次年度以降の解決・取組課題を具体化し、学校の質保証・向上に努めている。委員からはコロナ禍により遠隔授業を行う際の自宅のWi-Fi環境問題について意見があり、保護者への理解を図ると共に対応できていない学生への代替えて受講できる方策を用いて、教育レベルを維持させながら国家試験に向けた学習を提供できた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2021年7月30日現在

名前	所属	任期	種別
片岡 則之	日本大学 機械工学科	2020年4月1日～2023年3月31日	教育関係
清水 一浩	東北健康福祉株式会社	2020年4月1日～2023年3月31日	企業等委員
窪 睦子	総合南東北病院	2020年4月1日～2023年3月31日	企業等委員
遠藤 次男	仙南地域広域行政事務組合消防本部	2020年4月1日～2023年3月31日	企業等委員
佐藤 武諭毅	(株)フォーストエマーゼンシー	2020年4月1日～2023年3月32日	校友会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

・自校の元校長、卒業生、病院事務長、実習先看護部長、高等学校元校長

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(学校案内、DM等の印刷物にQRコードを付けて閲覧を促進))

URL: <http://www.i-medical.jp/> ※2021年8月に上記内容にて公表した。

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育内容、内部活動、外部活動、資格・表彰、また学校経営に係る事項等の実績については、公益法人として、関連団体・関連業界・学生就職先のほか、広く万人に発信する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要・教育理念・教育目標
(2)各学科等の教育	学科別カリキュラム・特色・資格・就職実績
(3)教職員	専任教員・兼任教員紹介・数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・就職指導
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事・対外活動・イベント・施設・設備
(6)学生の生活支援	各種奨学資金・学生寮・住居紹介
(7)学生納付金・修学支援	各種奨学資金・学費サポート・特待生制度
(8)学校の財務	収支決算書
(9)学校評価	自己点検評価結果
(10)国際連携の状況	留学生状況・国際提携校・国際交流活動
(11)その他	生涯学習・編入学等

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.i-medical.jp/> ※ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(学校案内、DM他印刷物にQRコードを付けて閲覧を促進している)

授業科目等の概要

(医療専門課程言語聴覚士科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			心理学	心理学の基礎を学ぶ。	1 年 次 前 期	30	2	○			○		○		
○			芸術	音楽療法を通し感性を身に付ける。	1 年 次 前 期	30	2	○			○			○	
○			国語	言語学の基礎となる口語文法、及び文書作成、読解力の学習を通して基礎的な国語力を錬成する。	1 年 次 前 期	15	1	○			○		○		
○			教育学	学校・教育・指導などについて理解を深める。	1 年 次 後 期	30	2	○			○			○	
○			社会学	社会全体の構造や変動、個人の価値・志向性等を考える。	1 年 次 後 期	30	2	○			○		○		
○			職業倫理学	仕事・職業に関する考えからSTを目指す自分を振り返り、倫理的考えを体験する。	3 年 次 前 期	15	1	○			○		○		
○			生物学	人体の構造の基礎として、生物の正しい知識を習得する。	1 年 次 前 期	30	2	○			○			○	
○			統計学	基本事項の理解とデータの処理法を学ぶ。	1 年 次 前 期	30	2	○			○		○		
○			情報処理	Word・Excelを用いて文章や計算の処理能力を身につける。	1 年 次 通 年	60	2		○		○			○	
○			英語	高校基礎英語（文法・読解）を習得する。	1 年 次 前 期	30	2	○			○			○	
○			英会話	簡単な英語を使って日常会話を学ぶ。	1 年 次 前 期	30	2	○			○			○	

○		保健	健康的な生活習慣を培うための基礎について学習する。	1 年次後期	15	1	○			○								
○		体育	安全に配慮し、協力して運動する態度を育成する。	1 年次前期	30	1		○			○							
○		医学総論	日本の医療現場の現状を見極め、現代医療の本質を見極める。	1 年次前期	15	1	○				○			○				
○		解剖学	人体の構造を理解する。	1 年次前期	30	2	○				○							○
○		生理学	人体の構造と臓器・組織の働きを理解する。	1 年次前期	30	2	○				○							○
○		病理学	病気の原因と本質を理解する。	1 年次前期	30	2	○				○							○
○		精神医学	精神医学の基本的な知識の習得。	2 年次後期	30	2	○				○							○
○		小児科学	小児の疾患や発達を学ぶ。	2 年次後期	30	2	○				○							○
○		内科学	代表的な疾患の原因と症状を理解する。	2 年次前期	30	2	○				○							○
○		リハビリテーション 医学	脳神経外科を理解しながら現場のリハビリテーションの実際を学ぶ。	2 年次後期	30	2	○				○							○
○		耳鼻咽喉科学	耳鼻咽喉科学領域の基礎知識の理解を深める。	2 年次前期	30	2	○				○							○
○		形成外科学	形成外科的基本事項を理解する。	2 年次後期	15	1	○				○							○
○		臨床神経学	神経や筋肉の異常について学び、各神経疾患の病態の知識を得る。	2 年次後期	30	2	○				○							○
○		臨床歯科医学・口腔外科学	顔面・口腔の解剖・生理・病態を学ぶ。	1 年次前期	30	2	○				○							○

○		聴覚系の構造・機能・病態	聴覚器の構造・機能・病態を学ぶ。	1 年次前期	30	2	○			○		○		
○		呼吸・発声・発語系の構造・機能・病態	呼吸発声発語に関わる器官の構造・機能・病態を学ぶ。	1 年次後期	30	2	○			○		○		
○		神経系の構造・機能・病態	中枢神経系・末梢神経系の構造と働きを学ぶ。	1 年次後期	30	2	○			○		○		
○		臨床心理学	臨床心理学の理論について、歴史的な背景・各派の特徴を学ぶ。	2 年次通年	60	4	○			○				○
○		学習心理学	心理学の基礎を理解し、学習の仕組みを学ぶ。	1 年次前期	30	2	○			○		○		
○		認知心理学	人間の感情・記憶・思考などについて実証的で総合的な理解を目標とする。	1 年次後期	30	2	○			○				○
○		生涯発達心理学	研修方法と発達理論を学ぶ。	1 年次通年	60	4	○			○				○
○		心理測定法	測定法の理論や具体的測定法について、代表する研究から実践的に学ぶ。	3 年次後期	30	2	○			○				○
○		言語学	基礎的知識を学び、日本語はどのような言語なのか学ぶ。	1 年次後期	30	2	○			○				○
○		音声学	単音レベルから音律レベルの音声学の知識・技能を身につける。	1 年次前期	30	2	○			○				○
○		音響学	言語聴覚士として必要な音についての知識を習得する。	2 年次後期	30	2	○			○				○
○		聴覚心理学	音の知覚現象、両耳聴、順応、カテゴリ-知覚について学習する。	2 年次前期	30	2	○			○				○
○		言語発達学	言語療法の基礎となることばの発達過程について理解する。	1 年次通年	30	2	○			○		○		
○		リハビリテーション概論	理学療法、作業療法における意味・意義を正しく理解する。	1 年次前期	30	2	○			○				○

○		言語 発達障害Ⅲ	言語の各側面、各障害について知り、1人1人に合わせたプログラムの考え方を学ぶ。	2 年次後期	30	2	○			○		○		
○		音声障害	音声障害の評価・診断・治療の概要について学習する。	2 年次前期	30	2	○			○		○		
○		器質性 構音障害	器質的な問題が原因で引き起こされる構音障害を理解する。	2 年次前期	30	2	○			○		○		
○		機能性 構音障害	構音の障害の定義と概要を把握し、評価・治療の内容を理解する。	1 年次後期	30	2	○			○		○		
○		運動障害性 構音障害Ⅰ	ディサースリアの概要・特徴を理解し、検査方法、検査の解釈、訓練プログラムの立案まで学習する。	2 年次前期	30	2	○			○		○		
○		運動障害性 構音障害Ⅱ	運動障害性構音障害に関する既習の内容を生かし、実技演習を行う。	2 年次後期	30	2	○	△		○			○	
○		吃音	吃音の基礎知識・検査・訓練について学ぶ。	1 年次前期	30	2	○			○		○		
○		嚥下障害Ⅰ	定義・原因・筋と神経などを理解できる。嚥下病態について学習する。	1 年次後期	30	2	○			○		○		
○		嚥下障害Ⅱ	摂食・嚥下障害の実際の対応について学ぶ。アプローチ法・リスク管理含む。	2 年次後期	30	2	○			○		○		
○		嚥下障害Ⅲ	嚥下障害に関する既習の内容を生かし、実技演習を行う。	2 年次後期	30	2	○	△		○			○	
○		聴覚障害 総論Ⅰ	聴覚障害の概要を捉える。	1 年次後期	30	2	○			○		○		
○		聴覚障害 総論Ⅱ	聴覚機能検査の概要と実施方法を理解する。	2 年次前期	30	1		○		○		○		
○		聴覚障害Ⅰ	小児聴覚障害と言語発達および聴覚検査その他の検査を理解する。	2 年次前期	30	2	○			○			○	
○		聴覚障害Ⅱ	成人聴覚障害の概要を学ぶ。	2 年次前期	30	2	○			○			○	

○		聴覚障害Ⅲ	聴覚補償の考え方を理解し、補聴器の基礎から応用までを習得する。	2 年 次 後 期	30	2	○			○			○	
○		臨床実習Ⅰ	評価実習を行い、言語聴覚療法の専門的知識や技術を学ぶとともに、社会人としてスキルを養う。	3 年 次 通 年	160	4				○		○	○	○
○		臨床実習Ⅱ	訓練プログラムの作成、訓練の実施、訓練を再評価といった一連の総合実習を行う。	3 年 次 通 年	320	8				○		○	○	○
○		一般臨床医学	心肺蘇生・応急手当法の習得、看護行為に共通する援助技術の理解。	2 年 次 前 期	30	2	○			○			○	
○		手話	手話の基礎、簡単な日常会話を学ぶ。	1 年 次 前 期	30	1			○		○		○	
○		国家試験対策	国家試験合格を目標とし、国家試験出題範囲の学習に取り組む。	3 年 次 後 期	240	16	○				○		○	
○		臨床実習対策	臨床実習が円滑に行えるよう、知識・技術を身につける。	3 年 次 前 期	90	6	○				○		○	
合計					74科目		3045単位時間(176単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件…全科目の単位を履修すること		1学年の学期区分	2期
履修方法…①3分の2以上の出席率 ②定期試験等の結果がC評定以上		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。